

あれから一年が経ち



このところ、この「片桐英数塾通信」を公私混同し過ぎているような気もしているのですが、父をご存知の方も数多くこの塾通信を読まれているとお伺いしておりますもので、「この場をお借りし、八月二十一日に父・片桐隆の一周忌の法要を無事執り行えましたことをご報告致します。お気にかけて頂いていた方々、本当にありがとうございました。あれから一年……。正直なところ、私や私たち家族にとってはあつと言つた一年でした。ただただ、自分を励ましたながら、そして多くの人に励まされながら、時に辛さ、厳しさを感じることもありました。ですが、それでも前に進めていることに、今では以前に比べますと、心に余裕も感じられるようになつてきています。

書いているのが八月二十日です。今日、父の一周忌の法要を行った場所は、近くの葬儀場の一室でした。そこは去年の八月二十四日前一時半頃、父が病院から遺体となり運び込まれたその部屋でした。去年のあの日と同じ部屋でしたので、私はどうしても去年のことがばかり思い出しまして、法要の間、遺体となりただけ静

かに眠っていた父の姿を脳裏に見ながら、去年のことと思い出していました。

去年の八月二十三日。あの日は当時高一生の授業でした。デルタ株の猛威の最中で、その日から、塾の授業を完全にオンライン授業に切り替えていました。父は、一時間半の授業の中で、情熱的にカメラに向かい、立つて四十五分、座つて四十五分、随分と力の入った授業をやり切りました。

ちょうどその日、私はあ

る塾生から「これ、じいちゃん、じいちゃんに渡してもらえないですか?」と一冊のノートを預かっていました。英語の添削ノートでした。その塾生は、中学の途中から当塾に通つてくれていた子で、父を「じいちゃん、じいちゃん」と呼び、慕つてくれていた子でした。私は「わかった、渡してください」とノートを預かつていていました。

夫はやつとゆつくり横にならノートを父に渡しました。

すると父は「いや、大丈

夫。今せんといかん」と言つた。夫はやつとゆつくり横にならノートを父に渡しました。

夫は「わー」と言いながらノートを取り、添削を始めました。

夫は「わー」と言いながらノート